



典礼委員会担当司祭 菅原友明

今月のポイント

どうして今になって

ミサの式次第が変わるのか？

現行の日本語版ミサ典礼書は1978年12月に発行され、40年以上にわたり使用され続けていますが、これは当時のラテン語規範版(第2版)の全訳ではなく、教皇庁典礼聖省から暫定的な認証を受けて使用してきたものです。

そのため、典礼書の改訂作業が進められてきましたが、2021年5月、ミサの主要部分である「ミサの式次第と第一(第四奉献文)」等が典礼秘跡省から認証を受けました。これを受けて2022年11月27日(待降節第1主日)から、新しい式次第を使用したミサを実施すること

になりました。なお、ラテン語規範版(第3版)に基づいたミサ典礼書の全体的な改訂作業は、今後も続けられていきますので、新しいミサ典礼書が完成するまでは今しばらく時間が必要です。よって当分の間は、現行のミサ典礼書と併用する形となります。



変更のポイントとは？

「ラテン語規範版への忠実」と 「日本への適応の適正化」

2001年3月に典礼秘跡省から公布された典礼式文の翻訳に関する指針『リトウルジウム・アウトエンティカム』は、式文の各国語訳に際して、ラテン語規範

版に忠実に翻訳するよう求めています。今回の改訂ではこの指針に従って、可能なかぎり規範版に合わせる努力がなされました。しかし、ラテン語規範版に忠実に訳した場合に、式文として唱えるのがふさわしくないとと思われる箇所等は、日本のための適応が行われています。また、反対に、現行ミサ典礼書において行っていた日本のための適応を、再検討し修正した箇所もあります。

具体的に式文はどう変わるのか、来月から紹介します。2022年11月27日の実施に向けて、しっかり準備してまいりましょう。

なお、カトリック中央協議会から『新しい「ミサの式次第と第一(第四奉献文)の変更箇所」(260円税別)』という冊子が発行されています。詳しくはこちらもご参照ください。

新しいミサの式次第については、カトリック中央協議会のホームページにも詳しく掲載されていますので、参考にしてください。左記のQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと、そのページが開きます。

